

京都市、宇治市・舞鶴市の靖国神社遺児参拝

一九五〇年代における靖国神社遺児参拝の実像を探る

松岡 勲

はじめに

本誌第七六号の「一九五〇年代の靖国神社遺児参拝の実像を探る」で、大阪府の事例を中心に全国的状況について報告しました。今回は、京都市及び京都府下（宇治市・舞鶴市）の事例について報告します。

一九五二年のサンフランシスコ講和条約発効後、占領体制のなかで抑制されていた戦争遺児の靖国神社集団参拝が公然と行われるようになりました。都道府県、市町村主導で一九五〇年代を通じて全国的に展開されました。私が今回、京都市の遺児参拝の事例を調べて見たいと思ったのは、次のような理由がありました。大阪府の遺児参拝の対象が「中学校三年生」であったのに対し、京都市は「小学校六年生」であったからです。「なぜまた年端もいかない小学校六年生の集団参拝がなされたのか」という疑問が浮かびました。

今回は前段で京都市の遺児集団参拝、後段で宇治市・舞鶴市等四市連合の遺児集団参拝について、調査結果を報告します。

一、京都市における靖国神社遺児参拝

「戦後五〇周年記念誌」（京都市遺族会連合会）

京都市役所に出向き、一九五〇年代の靖国

神社遺児参拝の資料を探しました。戦没者遺族関係の担当課である地域福祉課は京都市遺族会連合会の事務局も担当していますので、『戦後五〇周年記念誌』（京都市遺族会連合会発行、奥付はないが一九九五年頃のものと思われる）を所蔵しており、京都市で遺児参拝事業があったことが分かりました。遺児参拝は、一九五二（昭和二七）年度より実施され、一九五六（昭和三一）年度まで記載されていました。（その後の調査で一九五七年度まで行われていたことが分かりました）

【一九五二（昭和二七）年度】

第一回京都市代表遺児靖国神社参拝

日時 一〇月二四日～二七日

参加者 京都市内小学校第六学年児童
八〇八名

【一九五三（昭和二八）年度】

第二回京都市代表遺児靖国神社参拝

日時 九月二〇日～二三日（第一回）
（新聞記事）九月二五日出発であったが、台風一三号襲来で延期。別日に実施。

参加者 京都市内小学校第六学年児童
一〇月二五日～二八日（第二回）

参加者 京都市内小学校第六学年児童
一、一一四名

【一九五四（昭和二九）年度】

第三回京都市代表遺児靖国神社参拝並びに
東京都内見学

第一回

日時 九月一六日～一九日

表1 1950年代の京都市の靖国神社遺児参拝表

1952年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	10月24日～27日 (記載なし)	808人
1953年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	9月20日～23日 (台風で別日実施) 10月25日～28日 (計 1、114人) (記載なし)	
1954年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	9月16日～19日 9月19日～22日 (計 1、095人) 1、036人 (小学校六年在学者)	513人 582人
1955年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	8月9日～8月12日 1、008人	1、008人
1956年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	8月9日～8月12日 542人	542人
1957年度	戦後50周年記念誌 京都市事務報告書	(記載なし) 111人 (小学生69人、中学生42人)	

参加者 五一三名
第二団
日時 九月一日～二日
参加者 五八二名
【一九五五(昭和三〇)年度】
遺児靖国神社参拝並びに東京都内見学

日時 八月九日～八月一二日
参加者 一、〇〇八名
【一九五六(昭和三一)年度】
遺児靖国神社参拝
日時 八月九日～八月一二日
参加者 五四二名

【一九五七(昭和三二)年度】
(事業実績の資料散逸)

(新聞記事) 八月一〇日の帰京予定の時間が遅れるという記事、また、京都市事務報告書に実施の記述があり、一九五七(昭和三二)年度までは実施されていたと考えられます。

新聞記事に掲載された遺児参拝
朝日新聞京都版と京都新聞のマイクロフィルムが京都府立図書館にあり、検索しました。その記事の見出しは以下の通りです。

【一九五二年度】

「今度はお友達からも／靖国参拝の遺児に愛のはなむけ」京都(二〇・二四)
「双子児二組も加わって／遺児八百名、廿四日に靖国へ」朝日(二〇・二二)
「きょう社頭対面／遺児、靖国へ出発」朝日(二〇・二五)

【一九五三年度】

「あす靖国神社参拝遺児の壮行会」京都(九・二二)
「靖国遺児の歓送会／右京・きょう川岡校

庭で」京都(九・二五)

「元気で靖国へ」台風の街に運転手の美学」京都(九・二七)

【一九五四年度】

「靖国へ」遺児ならぬ「遺児」／辞退したが無理に／帰洛前に関係者大あわて」京都(九・二二)

【一九五七年度】

「帰る汽車が予定より遅れる／靖国参拝遺児団」朝日(八・一〇)

京都市事務報告書で確認できた遺児参拝

年度末の市議会に報告される京都市事務報告書が残っており、遺児参拝が京都市の事業であったことが分かりました。また、事業があつたはずの一九五二年、五三年度の記述はありませんが、一九五四年度～五七年度までの遺児参拝の記述(遺児靖国神社参拝並びに東京都内名所見学)がありました。一九五七年度の参加者人数が少なく、小学生以外に中学生も含まれていたこと、また、翌年以降に遺児参拝の記述がないので、遺児参拝は一九五七年度で終了したものとされます。京都市遺族会連合会の『戦後五〇周年記念誌』とあわせて見ると、最後の二年間を除き、毎年一〇〇〇名規模の遺児参拝であつたことに驚きました。

一九五四年度 参加遺児数 一、〇三六人
(小学校六年在学者)

一九五五年度	参加遺児数	一、〇〇八人
一九五六年度	参加遺児数	五四二人
一九五七年度	参加遺児数	一一一人

(小学生六九人、中学生四二人)

京都市の遺児参拝経験者

京都市学校歴史博物館の和崎光太郎さんの紹介で、一九五三年に遺児参拝をしたUさんに電話取材をしました。Uさんは一九四二年二月生まれ。お父さんは満州で戦死されました。その年、淳風小学校六年生だったUさんは、春日小学校に集合し、京都駅から上京の予定でしたが、台風一三号襲来で参拝は一度延期になり、後日実施されました。

二回目の集合場所は京都市駅だったと覚えているとおっしゃっていました。直前に学校で壮行会があり、校長の挨拶の後に、遺児の五、六人が答辞を述べました。参拝参加は京都市の子どものみでした。参拝の感想文は書きませんでした。Uさんの話では、当時遺族会か京都市から「最後の参拝」であると連絡があったとのことでした。しかし、その後も参拝は続きました。

また、小学校で壮行会が行われており、当時のお話を靖国合祀取消訴訟の元原告の吉田文枝さんに聞きました。吉田さんはUさんと同じ淳風小学校の同年度の六学年在学中で、Uさんの記憶はないとのことですが、「送られる側」「送る側」にいたことになりました。

吉田さんは、参拝する遺児を「選ばれた人」

と感じたそうです。私には見えていなかった視点です。遺児参拝に「選別」の働きがあったのかもう一度聞いてみなければならぬと思います。

以前、大阪府遺族連合会に問い合わせた際、電話に出られた事務局のKさんが京都市で行われた遺児参拝経験者でした。一九五二年か五三年の参拝と思われます。また、当時の小学校での遺児参拝者の壮行会の経験者が他にもおられました。靖国合祀取消訴訟高裁結審後の集会で、私が「靖国文集」の話をした際、傍聴者の方から「小学校の時、その参拝で友だちが東京に行くのをうらやましく感じました。それで、父がシベリア抑留からの帰還者であつたので、『なぜシベリアから帰って来たのか?』と今から考えると大変ひどいことを言った記憶があります」とのお話をされました。

その後、京都府遺族会事務局長の中村秀男さんとお会いしました。中村さんは遺児参拝の経験者で、一九四三(昭和一八)年四月生まれで、私と同年生でした。一九五五(昭和三十〇)年の六年生で、京都市の桂小学校在学中でした。夜行列車で一泊、翌朝に靖国神社参拝、こんな静かな所で父が祀られているのかと感じ、涙を流したとおっしゃっていました。後は皇居等都内観光、その日は東京泊、夜行列車で一泊、帰京という行程でした。感想文を書いた記憶があるが、文集をもらった記憶はないとのことでした。

京都市の調査を終えて

京都市の遺児参拝を調べる過程でひとつの知見を得ました。最初、京都市の参拝が小学校六年生であることを奇異に感じていました。しかし、必ずしも異例ではないのではないかと思います。調査のなかで『戦後を生き抜いた妻たちの証言・婦人部戦争体験談集／京都市遺族会連合会婦人部結成五〇周年記念誌』(京都市遺族会連合会婦人部)に出会いました。京都市遺族会連合会婦人部の結成五〇周年を記念して作られた冊子(取材・編集、早内高士)でした。その編集者の元京都新聞記者の早内高士さんに連絡をつけたところ、早内さんはお父さんを硫黄島で亡くされており、小学校六年生(一九五四年)時の島根県の遺児参拝体験者だったことでした。また、『日本遺族会十五年史』で富山県の遺児参拝文集『のびゆく遺児たち』(一九五四年三月発行)があることが分かり、富山の友人に複写をお願いし、入手しました。富山県の場合、小学校六年生・中学生・高校生の参加であることを知り、驚きました。翻って戦前の遺児参拝が「銃後の少国民国民育成」を狙いとして対象が国民学校五、六年生であったことを考えると、私の経験(中学校三年生)は前提にならないのではないかと、もしかしてそれは戦後の状況の反映かも知れないと思いました。

二、宇治市、舞鶴市における 靖国神社遺児参拝

一九五〇年代の京都市の靖国神社遺児参拝について述べましたが、その調査の過程で一九五八年以降に宇治市・舞鶴市・綾部市・福知山市の四市連合で靖国神社遺児参拝を行っていたことを知りました。それで宇治市、舞鶴市の遺児参拝について調査しました。

宇治市の靖国神社遺児参拝

宇治市での一九五〇年代の靖国神社遺児参拝関係の資料を探しましたが、宇治市の広報紙「宇治市政だより」と京都新聞山城版しか資料は残っていませんでした。特に「宇治市政だより」は一九五一年一二月の創刊号より現在までアーカイブで見ることができ、大変便利でした。京都新聞社文化センターではマイクロフィルムの検索ができました。

宇治市の靖国神社遺児参拝は、他地域と同様に一九五二年から始まっています。一九五二年度には一月と三月の二回行われました。参拝は「府遺児靖国神社参拝旅行」となっています。京都市の遺児参拝調査の折りに、京都府総合資料館で京都市の遺児参拝事業も調べましたが、文献は見つかりませんでした。今回京都市でも遺児参拝事業が行われていたことが確認できました。なお、そのことに関連して、『日本遺族会十五年史』の都道府県

支部概況編の「京都市」の項には、「靖国神社の集団参拝、特に小学六年在学の子供を市町村の補助金により二十六年から三十二年まで京都市を合わせ約八千名を集団参拝させた。」とあります。

明らかにした一九五〇年代の宇治市の遺児参拝は次の通りです。

●「遺児代表三五人 靖国神社参拝」(第一二号、一九五二・一一・一)

市遺族会では本年も市内各校から遺児代表三十五人(六年男女児該当者全員)を引率、三日に東上して靖国神社秋の大祭に代表参拝する。

●「遺児五八人、靖国へ」(京都新聞山城版、一九五三・三・一)

宇治市の地事管内の遺児たちのうち新生のみ五十八人は各市町村遺族会長、民生主任の引率で府遺児靖国神社参拝旅行に参加、四日午後六時京都発列車で東上、六日同社に参拝して晴れの対面を終えた後午前五時京都着列車で帰郷する。なお同参拝費用は全額各町村が負担している。

●「六月十四日出発で靖国神社参拝 宇治市遺児八十九人」(第二〇号、一九五三・六・二)

府下四市連合による今年靖国神社へ遺族、遺児の参拝は六月十四日出発と決定、宇治市では中学の三年、小学校の六年の学童が市、学校側、遺族会長引率のもとに

遺児喜界多己夫、松阪和子さん等八十九人が東上、社頭でまぶたの対面をするこ

とになった。

●第二二号に遺児の作文、六年生十〇人

●「靖国の遺児ら東上参拝」(第三六号、一九五四・七・一)

さる六月九日宇治市の英霊の遺児五十五名は、舞鶴、福知山、綾部の遺児らとともに東上、靖国神社参拝、都内見学等の日程を無事すませて、十二日帰宇した。

●「こんなに大きくと遺児靖国の父に報告」(第四六号、一九五五・七・一〇)

宇治市の遺児三十八人はさる二十日池本市長、金井遺族会長等の激励をうけて東上、靖国神社に参拝してまぶたの父に生長を報告して全員無事二十三日帰宇した。

●第四七号に東上遺児の作文集、小学生八人

●「靖国へ遺児参拝」(第五七号、一九五六・六・一〇)

宇治市内遺児四十一名は、市及び遺族会関係附添のもとに今年も来る二十五日夜出発東上し、靖国神社参拝、二十八日帰宇する。

●第五九号に子どもの作文・靖国神社参拝、六年生一名

遺児参拝四市連合事業の経過

遺児参拝四市連合事業は一九五三年より始まっています。京都新聞(山城版)の記事によると「府遺族会のあつせんによる」府遺児代

表2 宇治市の靖国神社遺児参拝表（「宇治市政だより」等）

第12号 (1952/11/1)	遺児代表35人靖国神社参拝 6年男女児該当者全員 11月3日東上 靖国神社秋の大祭に代表参拝
京都新聞山城版 (1953/3/1)	3/4～7靖国へ 新生生のみ遺児58人は府遺児靖国神社参拝旅行に参加
第20号 (1953/6/1)	6月14日出発（～17）で靖国神社参拝 宇治市遺児89人 府下4市連合による遺族、遺児の参拝 中学校3年、小学校6年
第22号 (1953/8/1)	遺児作文集（6年生10人）
第36号 (1954/7/1)	靖国の遺児ら東上参拝 6/9～12 宇治市遺児55名 舞鶴・福知山・綾部と4市連合
第46号 (1955/7/10)	こんなに大きくと遺児靖国の父に報告 6/20～23 宇治市遺児38人
第47号 (1955/8/10)	靖国の父よ、大きくなりました ねがう平和への願い 東上遺児の作文集（小学生8人）
第57号 (1956/6/10)	靖国へ遺児参拝 6/25～28 宇治市遺児41名
第59号 (1956/8/10)	コドモの作文 靖国神社遺児参拝（6年生1名）
第15号 (1953/2/1)	遺族援護は同調で4市遺族会長会（舞鶴・福知山・綾部・宇治市） 1/17 宇治市役所で遺族の更生援助・英霊追悼会・遺児参拝等
第29号 (1953/12/1)	本年度上半期宇治市財政事情公表 本年6月に戦没者遺児約200名の靖国神社参拝予算24万円 （*第20号では遺児参拝89人となっている。）
京都新聞山城版 (1953/6/11)	遺児90人が靖国神社参拝 府遺族会の斡旋による「府遺児代表靖国参拝」から離脱、 府下4市独自の立場から実施することになった遺児参拝 6/14～17

表靖国神社参拝から離脱、府下四市独自の立場から実施することに決定した。四市遺児靖国神社参拝とあるように何らかの理由で四市は京都府の靖国神社遺児参拝から脱退し、独自行動を取ったものと思われまゝ。四市連合遺児参拝は後で見る舞鶴市の場合と重

ねると一九五六年まで続いたと考えられます。

●「遺族援護は同調で 四市遺族会長会」（「市政だより」第一五号、一九五三・二・一）
舞鶴、福知山、綾部、宇治四市の遺族会では遺族の厚生援護について四市共同歩

調の題目のもとに宇治須知遺族会長發起で去る十七日宇治市役所市長室で府世話課長、宇治市長、助役等列席、四市遺族会長の初会合を催し遺族厚生援助、就中母子所帯に対する指導、遺児の義務教育の完全実施、市主催の英霊追悼会、遺児の靖国参拝等共通問題について市の支の方申入れる事を協議し、今後必要に応じて四市連絡協議会を催すことを申し合わせた。

●「本年度上半期宇治市財政事情公表」（「市政だより」第二九号、一九五三・二・一）
本年六月に戦没者の遺児約二〇〇名（第二〇号によると八九人の間違い）を靖国神社に参拝するため戦没者遺族対策費として二四万円又遺族国庫債権を確保として貸付金七〇万を出資し遺族の厚生に資して居ります。

●「遺児九〇人が靖国神社参拝」（京都新聞山城版、一九五三・六・一一）
既報「府遺族会のあつせんによる」府遺児代表靖国神社参拝から離脱、府下四市独自の立場から実施することに決定した。四市遺児靖国神社参拝は、いよいよ十四日行われるが、宇治市では同日遺児九十人（中学三年生、小学校六年生）が東上参拝に参加、十七日帰宇の予定で離脱都市の責任と名譽にかけて、この第一回東上を無事故に終わるべく慎重に対策を進めている。

●「無事昇殿参拝 府下靖国に遺児」（京都新聞山城府民版、一九五六・六・二七）

宇治市ならびに舞鶴、宮津、福知山、綾部、峰山の府下五市一町の遺児二百八十名を中心とする遺族四百四名の靖国神社参拝の一行は二十六日朝九時二十八分臨時列車で東京駅着、疲れもみせず直ちに昇殿参拝、玉ぐし奉典を行って亡き父の冥福を祈り、午後は国会議事堂を見学、同夜都内四旅館に分宿、東京第一夜の夢を結んだ。きょう二十七日は都内見学して二十八日朝臨時列車で東京発帰着予定。

舞鶴市の靖国神社遺児参拝

舞鶴市役所まで出かけました。舞鶴市広報「鶴の百聲 市政だより」（後に「舞鶴市政だより」）には二点の記事しかありませんでしたが、四市連合事業の最初が一九五三年、「最後の団体昇殿参拝」と広報にある一九五六年が最後と確認できました。

また、京都府宮津市遺児参拝団が「府の靖国の遺児第三陣二百四十八人」として靖国神社参拝をしたという記事があります。（「靖国の父と対面」きのう奥丹の遺児達」（京都新聞丹後版、一九五三・六・一〇）これからも四市連合の遺児参拝が行われた時期に京都府の靖国神社遺児参拝が同時に行われていたことが分かります。

以下に舞鶴市公報と京都新聞（丹後版）の記事とあわせて整理します。

●「本市遺児八〇名 靖国神社の父に対面」（「鶴の百聲 市政だより」一九五三年・六・二五日）

わが国の独立一周年を記念して福知山、綾部、宇治、舞鶴の四市共同主催のもとに戦争により父を失った児童を靖国神社に参拝せしめることとなり、小学校六年生児童本人或いは保護者の希望により参拝者を募り、本市では遺児一三三名中八十名が参拝することになり、去る六月十四日西公会堂において壮行会を開き（中略）本市岡野福祉事務所長、小国同東所長、岡井吏員の引率で十二時十二分西舞鶴出発、京都で他の三市の児童と合流し翌十五日午前五時東京着八時に靖国神社参拝をすませ、十六日には東京都内遊覧、宮城を拝観し十七日正午西舞鶴駅に全員無事に到着した。

●「舞鶴の遺児出発 靖国神社参拝の旅へ」（京都新聞両丹版、一九五三・六・一五）

舞鶴市福祉協議会、同遺族会主催の靖国神社参拝壮行会は十四日朝十時から西公会堂で「中略」開かれ佐賀根市長はじめ出席者から壮行の言葉をもらって遺児八十人（男四四、女三六）は希望にもえた元気な姿で「行ってきます」と応え関係者多数の見送りをうけて午後零時十五分西舞鶴駅発列車で出発、綾部駅で福知山綾部両市の遺児と合流、午後五時五十八

分京都駅発列車で宇治市の遺児とともに東上する。

●「靖国神社参拝終わる」一層きばって勉強、靖国の父に誓う！（「舞鶴市政だより」一九五六・七・三一）

舞鶴市の靖国の遺児六十五名は、去る六月二十六日から二十八日まで三日間、市福祉事務所荒木所長ら係員の引率で、靖国神社へ最後の団体昇殿参拝を終り全員無事元気で帰ってきました。

舞鶴市の遺児参拝体験者

以前に京都府遺族会を訪ねた折、事務局長の中村さんは、京都府遺族会の所持する府下市町村の遺族会の周年記念誌を五、六種用意してくださいました。そのうち舞鶴遺族会の創立六〇周年記念誌に遺児参拝に関する文章がありました。舞鶴東遺族会の連絡先を聞き、舞鶴市東遺族会に電話をし、遺児参拝があったのかどうかを問い合わせしました。

舞鶴東遺族会事務局のSさん（女性）が小学校六年生の時に遺児参拝に参加したことが分かりました。Sさんが参加された遺児参拝は、一九五六（昭和三一）年で、遺児参拝の「最後の年」でした。六年生以外に五年生も参加したそうです。舞鶴西遺族会の参加者とともにバス一台で京都まで出て、夜行列車（二泊）↓靖国神社、上野動物園等都内観光（二泊）↓夜行列車（二泊）だったとのこと。また、遺族（妻）で靖国参拝に行けていない人（S

さんのお母さんもそうだったとのことですが、
遺児と一緒に参拝しました。

舞鶴東西遺族会刊行の『創立六〇周年記念誌 平和の祈り』のなかで唯一遺児参拝について書かれているSさん（男性）の文章には感銘を受けました。

Sさんのお父さんは一九四五年一月三十一日にフィリピン・クラーク地区の戦場で戦死されました。一九四四年に加古川で最後の面会をした時が、「最後の面会となり、抱っこされて飛行機のコックピットに座った三歳の記憶には父の姿はありません」「四年生頃まで、残されたアルバムの中の写真と舞中生徒手帳、軍事顧問団で派遣された蒙古の包頭から出されたハガキや手紙に、父親の存在を確かめたものだった」とありました。

また六年生の時の靖国神社参拝の経験については、「六年生での靖国神社参拝に『あなたのお父さんはここに眠っています』との（注：宮司さんの）説明に納得することができず」と書かれていました。Sさんは最後に次の様に結びます。

各自の自立生活により戦闘継続という作戦が各自に武器や食糧の補給が無く、そのほとんどが飢餓と病気に苦しみ倒れ直接の戦闘による戦死より多く、過去の歴史にもしもという仮定はないのですがクラーク基地で敗北した二月一日に白旗が上げればフィリピンで十数万の命が、

終戦の決断が一ヶ月早ければ数万の命が救えたのです。

おわりに

これまで大阪府の遺児参拝調査から始めて、京都市、京都府下の宇治市・舞鶴市の遺児参拝と追いかけてきましたが、今後の課題として考えていることをいくつか書いて、まとめに変えます。

（1）この間、一九五〇年代の各地の靖国神社遺児参拝の児童の「文集」（大阪府、茨城県、富山県、島根県、広島県等）を集めてきましたので、一度整理して分析してみようと思っています。とりわけ調べたいのは、被爆地広島県と長崎県（長崎県には文集が多く残っています）と靖国神社遺児参拝との関連です。

（2）昨年四月に参加した戦争社会学研究会第七回研究大会で個人報告（「一九五〇年代における京都市の靖国神社遺児参拝の実像」）をしました。討議のなかで五〇年代の靖国神社遺児参拝についての「国の政策レベルの検討、戦傷病者戦没者遺族等援護法との関連」を調べると良いと指摘を受けました。これを課題としていこうと思っています。

（3）京都市の戦前の遺児参拝の体験者がおられますので、戦前の遺児参拝を調べ、戦後の遺児参拝と関連性（連続性）を分析したいと思います。

（まつおか・いさお／立命館大学非常勤講師）

（追記）

拙稿は先に書きました「一九五〇年代の靖国神社遺児参拝の実像（七）（九）」（「反天皇制市民一七〇〇」第三七号、第四〇号）を再構成したものです。